

「翔 鷗」

2017年3月28日 発行



■新たな道のりへ

会長 平田 龍弘



同窓会の皆様におかれましては、日々ご健勝にて各地でご活躍のこととお慶び申し上げます。この冬は、大寒波、大雪などの不順な天候が続き、各地が大きな被害にあわれた方がおられましたら、心よりお見舞い申し上げます。

早いもので初代会長の河野様から会長職を引き継ぎ、同窓会長を仰せつかってから早7年になりました。皆様の暖かい叱咤激励をいただきながら前に進んでいます。

さて、地元の教育を担ってまいりました、市立相生高等女学校・市立相生造船高等学校・県立造船工業学校・市立相生高等学校・県立相生工業高等学校を前身とする兵庫県立相生産業高等学校は、2019年に75周年を迎えます。創立当時は、1学年全日制課程9クラス（普通科2クラス、機械科2クラス、造船科1クラス、商業科3クラス、被服科1クラス）と昼間定時制課程1クラス（機械科1クラス）でありましたが、社会の変革、時代の流れにより、現在では1学年全日制課程5クラス（機械科2クラス、電気科1クラス、商業科2クラス）と定時制課程1クラス（機械科1クラス）となっています。現在、生徒の減少により本校の位置する第4学区でも学校規模の縮小が進んでおり、今後少子化がさらに深刻化し専門高校といえども規模縮小の例外ではありません。本校においても、これ以上のクラス減は生徒、教員の減少を引き起こし、学校の活力がなくなり十分な専門教育を行うことが難しくなり、ひいては学校存続の危機、相生市の合併消滅に陥るのではないかと危惧しております。

そのため、学校では魅力ある産業教育や地域社会に貢

献し特色ある学校づくり、夢と希望を実現するための取組みを重点的に行っています。私も後輩の活躍が新聞各紙の播磨地域版で頻繁に取り上げられ、また地域行事での活動をよく見かけます。部活動においても、少林寺拳法部・剣道部、柔道部、ボート部、機械研究部、商業部などの全国大会出場を初め、近畿大会、県大会で活躍しています。先日も銅鐸を相生市教育委員会に寄贈された報道や商品開発の記事を読み、相生に元気を発信する後輩たちの姿を誇らしく感じ応援したいと強く思いました。同窓会としましても、会員が一体となり支援・協力していき地域になくってはならない相生産業高等学校として、更なる発展に協力していきたいと思えます。そのためにも、我々同窓会員の横のつながりを広め、同窓会員の皆さんの近況、各回生の取組みや各地区・企業などでの同窓会活動、学校の情報などを皆様に発信し、相互のつながりを深め、絆を強くしたいと思います。今まで、同窓会報誌は周年行事、式典行事のときのみ発行してきましたが、今年から定期的に会報誌を発刊して同窓会員の一体化を図ることにしました。会報誌はWeb上で定期的に発信させていただきます。会報誌に掲載する皆様の情報提供などにもご協力をいただけますようよろしくお願いいたします。

最後になりましたが。後輩たちの活躍を支援し、全国の専門高校の先達となり地域社会と連携を強め、地域課題を解決するための地域社会に不可欠な人材を育成する学校づくりを目指し躍進する母校に力添えできますように会員皆様のご支援ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

■同窓会通信「翔鷗」創刊のお祝い

第21代校長 壺阪 康郎



同総会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より、本校教育活動に対しまして、一方ならぬご支援を頂いておりますことに、心からお礼申し上げます。

このたび、同窓生の皆様を繋ぐ同窓会通信「翔鷗」創刊を心からお祝いするとともにお慶び申し上げます。平成31年の創立75周年にむけて、2万2千余名の同窓生の世代を越えたつながりと一体感がさらに醸成されることと思えます。

現在、本校は創立73年を迎え、全日制過程【機械科(2)、電気科(1)、商業科(2)】の3学科(5学級)計15学級で生徒数600名と定時制過程【機械科(1)】4学級160名を有する県立相生産業高等学校となっています。

地域では相産の愛称で親しまれ、校訓「誠実」「創造」「努力」のもと、多くの有為な人材を世に輩出しています。教育目標を①生徒の学力向上と教職員の指導力向上②地域交流と国際交流の充実③高大連携・高専連携の充実による多様な学びの完成、を掲げ教育活動に取り組んでいます。その成果は、資格検定の合格率や部活動・専門教科での全国大会出場、大学・公務員・医療系合格者数に如実に表れています。

今年度は、新しく岡山理科大学・流通科学大学とも教育連携協定を結びました。昨年度締結した関西福祉大学を含めると、医歯薬系を除くほとんどの学部の学びを提供できる環境が整いました。また、台湾国立彰化師範大学附属高級工業職業学校との姉妹校協定を結び、テレビ会議を用いた学びは海外へと広がっています。また、学びは地元地域の同窓生とともに進んでいます。相生カキ殻粉末を用いた「瀬戸内の豊富なミネラルを含んだ泡立ち石鹸」、「ゆず味噌シフォンケーキ」、「天然酵母パン(ゆず、メロン)」、「相生育ちのメローネ」メロンリキュール、「あいおいもアイス」、「キャッサバ芋焼酎」、「ゆずみそぼん!」などの地元産物を用いた商品を開発し、技能技術の継承として「銅鐸復元」や「車椅子修理」に取り組み、地域創生にも貢献しています。

さて、通学区域再編されてから3年目の入試を迎えま

した。2015年度より県全体で従来の16学区から5学区に再編されました。姫路・福崎学区と西播地区が統合されて第4学区となり、中学校卒業生の減少とあいまって複数志願普通科・総合学科のみならず専門高校にも少なからず影響を与えています。学区拡大によりチャンスが増えるとばかりに専門学科から普通科や総合学科への流れが見える中、職員の教育活動の頑張りをもって、平成29年度も推薦入試、一般入試も多くの中学生在本校を志願しました。しかし、平成33年に至るまで、中学卒業生数は大幅に減少し、募集定員に満たない多くの学校が出現することとなり、学年クラス規模縮小に繋がります。普通科、総合学科のみならず専門学科においても死活問題です。専門学科の場合、生徒の減少は、学校だけの問題ではなく、地域の活力にも大きく繋がってきます。

今こそ、私たちは、生徒の持てる能力を最大限に引き出し、保護者や同窓生、地域、生徒から信頼される学校づくりを進めていかなければなりません。地域を活性化しさらに創生する人材、アントレプレナーシップの精神を育て、企業が求める実力を備え、価値を創造できる卒業生を送り出す。また、さらなる学びのために大学や医療関係への進学者や地元の将来ビジョンを作成する公務員を増やす必要があります。生徒の夢が叶い、地域とともに活動し、地域になくってはならない学校でなければなりません。そのためにも、生徒に日々の学習だけでなく自ら考え行動する姿勢を身に付けさせ、さらに意欲を高める必要があります。また、教職員自身も新しいことに挑戦し、地元企業や市役所、博物館、連携協定大学、大原学園との関係を深めながら、自らの教育力の強化に努め、魅力ある教育活動をすすめていかなければなりません。平成31年には、創立75周年を迎えることになります。創立4分の3世紀の区切りとして、同窓生の皆様とお祝いの会を持ちたいと考えています。それに向けて、更なる歩みを進めて行きます。

最後になりますが、同窓会の皆様におかれましては、母校に対しより一層のご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。

同窓会回想録

甦る思い出 相産と共に

昭和34年 普通科卒業 金谷 公夫さん

健康の為、早朝の散歩が日課の私は、時々母校の相産まで足を延ばし当時は懐かしく思い浮かべながら、周辺を散策しています。

昭和34年、私が市立相生高校を卒業と同時に県立移管で相産産業高校が誕生し、以後三度、相産に関わる事になるとは想定外の事で私にとっては幸せな縁でした。

昭和38年、念願が叶い相産で体育教師としての一步を踏み出しましたが、市高時代の恩師やユニークな先生方が沢山おられ、半人前の私を鍛えて頂き心の糧となりました。

当時の相産は生徒数も多く、学校全体に活気が漲っていた時代でした。部活動も活発で、古く狭い体育館の舞台上まで使って多くのクラブが練習に励んでいました。設備は乏しくとも、生徒たちの瞳は輝いていたと思います。一方、生徒たちの問題行動も少なからずあり、若気の至りで手をかけてしまい、後悔の残る恥ずかしい思いもしました。

この経験から「力に頼らない生徒指導」を追求する姿勢に繋がりを、失敗から学ぶことの大切さを知りました。二度目の定時制時代、阪神淡路大震災を体験し未曾有の災害を知った生徒たちが、街頭に立ち募金活動をおこなったり、ボランティアで神戸に行きその働き振りに、被災者の方々から大変感謝される等、普段とは異なる定時制生徒の底力を思い知り、感動を覚えました。

最後は平成11年、校長として着任。当時、バブル崩壊後の不況や少子化の影響で、学校も閉校や閉科・学級減等の波が押し寄せ、懸命に守りながら進む方向を模索する厳しい状況でしたが、全定教職員に支えられ、大過なく教師生活を終えることができました。

相産は我が母校であり、未熟な私を鍛え、育ててくれた大きな存在で、心からの感謝とエールを贈りたい。

『相産に栄光あれ、相産に愛燦燦たれ!!』



「人」と「運」に感謝

昭和48年 機械科卒業 安原 浩一さん

母校『相産』での一番の思い出は、サッカーに出逢えたことである。

入学前の教科書配布の日、校門で待ち受けていた3年生から、サッカー部への勧誘を受けた。球技は好きだったものの、「高校で運動クラブへ」とは全く考えていなかった私だったが、断る勇気が無く半ば強制的に入部する事となった。この年、サッカー部は同好会から部活になったばかり。個性的な先輩達は、まあ一口で言うとうと「やんちゃ」であった。そこでは、ある意味 反面教師？として学ぶことが多かったように思う。結果的に私は、卒業直前まで、練習にあけくれるサッカー少年になった。卒業してからは、先輩達と『相生フットボールクラブ』を結成し、日曜日のサッカーが最優先？ぐらいの意気込みで、まさに「没頭」した。その後、地元赤穂の社会人チームでプレーしながら、少年サッカーチームの指導や体育協会等、こうして現在に至るまで 様々な形でスポーツに関わっている事は、47年前に相産の校門で私をスカウトした！（無理やり巻き込んだ？）サッカー部の先輩方との出逢いのお陰といえる。

また、アース製薬への入社も幸運であった。卒業時の1973年は、オイルショックで求人が少なく、最初に受験した電機会社は、不合格になってしまい、途方にくれていた私をアース製薬が採用してくれた。すでに同級生二人が合格していたタイミングで、私が追って入社出来たのも、ひとえに先生方のご支援の賜物だと思う。当時のアース製薬は、大塚グループとして4年目を迎え、ごきぶりホイホイを新発売したばかり。これが爆発的ヒットとなり、一気に黒字化した。以降、諸先輩方の奮闘ご努力で順調に成長し、2005年には東証に上場。現在では、多くの相産出身の社員達が、我が社を支えてくれている。思い返せば、相産で出逢ったサッカーがライフワークとなり、たまたま入社できたアース製薬で仕事を通じて色々なことを経験。本当に充実した人生であった。

多くの同年代社員が、定年を迎える時期となって、昨年から高校生の採用を再開しており、母校出身社員も活躍してくれている。後輩達には、自分の長所を最大限に活かし、一日一日をしっかりと輝きながら生き抜いて欲しいと願う。

私に関わってくくださった「人」。

自分ではどうしようもない「運」。

私はこの「人」と「運」に、心から感謝している。



今の職業を選択したきっかけ

中学生時代の私は、勉強が嫌い、でも学年で成績が低いのは悔しいからテスト前だけ勉強する。また、早く大人になって自由になりたい。と、思うだけで、特段やりたい事もなければこれといった夢や目標もありませんでした。

高校受験時は、高卒で就職することを前提に、機械類に興味があったこと、自宅から近いことから本校機械科を選択しました。入学後は、興味ある科目の成績が良かったこともあり、2学年に進級する頃には大学卒に憧れて進学を視野に入れるようになりました。

塾へ通い、生徒会に入るなど、進学に向けて経験を積んでいきました。しかし、受験する大学など具体的に考えたとき、果たして自分は勉強を続けていけるのかと、疑問に思いました。大学生活を想像しても遊ぶ事ばかりで、結局、4年間遊ぶ事になるのであれば就職する方が良いのではないか？という結論に達しました。

昭和11年 機械科卒業 向矢 一博さん

やがて塾は辞め、アルバイトを始めました。ここで、収入を得ることの大変さを初めて知って多くの事を学び、自分が就きたい職業について考えるようになりました。この頃は、自動車関係や鉄工関係など漠然としていましたが、3学年の夏、担任教師から消防士の採用試験を勧められたことをきっかけに消防士を目指すことになりました。それまで、消防士という選択肢が私の中にはありませんでしたが、考えれば考えるほど消防士以外の選択肢は消えていきました。

このきっかけがなければ、全く別の職業に就いていたかもしれないと思うと、当時の担任教師には本当に感謝しています。



昼間定時制の思い出



私は、昭和38年春昼間定時制機械科第2期生として、本校に入学いたしました。

当時は、高度成長期が始まった頃で、世の中は、まだ

だまだ貧しく、石川島播磨重工（現IHI）より提案された産学協同の「昼間定時制」は、学費も不要で給料（約7000円）もあり、多くの方が受験しました。

私たち第2期生は、岡山県の備前市から姫路市までの、同期生80名と共に4年間学びました。活発で、個性的で、そして優秀な連中（？）が多く来ていたと思います。

また、学校の教育もユニークで一般の高校の様に夏休みなどの長期休暇は無く、自衛隊での合宿や六甲山や蒜山高原、峰山高原でのキャンプなど、数々の校外活動、3年生からはIHI内部での実習など、普通の高校生活には無い多くの体験と、多くの友人もでき、成長させて頂いたと思います。そして、このような体験が、卒業後、野に山に出かけ仲間を集めてのサークル活動に繋がっていきました。

4年後の卒業時には、20名余りが新天地を求め、IHI以外の進路に分かれて行きました。大学に進み先生や

昭和42年 定時制機械科卒業 大橋 博文さん

大学教授になられた方、事業家など各界で活躍されています。

しかし IHIも、造船不況などにより昭和55年の卒業生で、昼間定時制は幕を下ろしたようです。

私は、卒業後40年余、IHIで鋳物部品の製造をおこない、約10年前、定年退職を致しました。

相産での4年間の体験は、私の生き方に息を吹き込み、生涯の友を与えてくれました。IHIに定年まで勤めた者、別の道に進んでいった者、今も「38会」「ふたたび会」と毎年のように同窓会が開かれ、50年前と同様に馬鹿を言いあい「校歌」を歌う、かけがいのない繋がりが続いています。



つながり

昭和60年 商業科卒業 岩本 敦子さん



昭和 57 年 4 月、入学した私は、小学生のころに経験があるという理由で、書道部に入部し 2 年生の時、顧問として出会った上月通歳先生に、今現在も師事し書道を続けています。

昨年、卒業した二男が入学したとき再会した同級生との縁で、卒業記念として『校訓』書かせていただきました。とても光栄なことです。

不思議なものです。上月先生と出会っていなければ、同級生と再会していなければ、書道が続けていなければ、今回のような素晴らしい経験はできな

かったことです。すべての事は繋がっているのだなあと感じています。

今、自分の置かれている状況や家族、出会いに感謝し、これからも続けていけたら…と思います。

恩師から

旧職員 書道部顧問 上月 通歳先生

昭和 58 年 4 月、県立相生産業高校に新任で着任したとき、岩本（旧姓 上吉川）は 2 年生で書道部員でした。

前任の香西純児先生から引き継ぎ、私が指導することになりましたが、書道部で出品した読売新聞紙上書道展で、岩本さんは見事、一席を受賞しました。県内高校の部で 1 名でした。

さらに一席受賞者だけの出品による中央審査で見事、最優秀賞（西日本一）にも輝きました。読売新聞社の取材があり、大きな記事が掲載されました。

岩本さんは、卒業後も「岩本鐘」の名で活動を続け、各種展覧会で入選・入賞を繰り返し、今は指導者として活動しながら、毎日書道展を中心に活躍されています。

Dosou 《同窓会だより》 Report



昭和61年 商業科卒業生同窓会

卒業してから30年が経ちました。振り返ってみれば、あっという間。相産近くを通りますと、今でも懐かしく3年間を育てて頂いた記憶がよみがえります。

卒業翌年、学校案内に載せて頂きました。当時は、造船・機械・商業・被服と4つの学科47人学級。人と机で教室がいっぱいだったこと。皆、ピチピチしててグラグラ

昭和61年 商業科卒業 稲田 元美さん

よく笑ってたこと。足にギブスをして通ったこと等々、色々と思い出します。しっかり青春していました。

同級生と会うと気持ちはいつでも乙女。仕事や家庭その他etc などしがらみから解放されて、当時の純粋な気持ちになります。すると、あの頃のように『元気出して頑張ろう』と思ってしまうのも不思議です。

さて、同窓会ですが商業科で2回開催。前回は平成21年6月“赤穂ハイツ”にて。写真を見ますと皆若い。

7年前の同窓会を機に、寺田先生を囲む会を年数回開いています。これがま〜楽しい&楽しんでます。寺田先生、そして皆長〜いおつき合いを本当にありがとうございます。この同窓会通信を機会に、次回同窓会が出来る事心待ちにしています。

1日でも若い姿でかけがえのない級友と集まれたらです!!

昭和61年卒業の皆さん連絡お待ちしております。

学校だより

【機械科】

機械技術の専門的な知識・技能を習得するため、ものづくりコンテストや技能検定に向けて「ひょうご匠の技」探究事業や高度熟練技術者などを活用して、技術・技能の習得を目指しています。

資格取得では製図検定・旋盤技能検定・溶接技量など、これ以外の検定にも多種類にわたりチャレンジしています。高大連携事業では、毎年行っている課題研究発表会のプレゼンテーションを、岡山理科大学の教授を招き、「研究成果を上手に伝えるため」の講義を受け、今年の発表会では効果を上げることができました。

ボランティア活動では、廃棄される車イスを修理し、「空飛ぶ車イス」の名で、今年も17台を海外に贈ることができました。そのほかにも、ものづくりの面白さを体験してもらう、小学生工作教室「出前授業」を行い、機械科の生徒が教えることにより、学びの姿勢を養うことができました。

機械技術者にふさわしい人材の育成するため、検定の資格取得を目指し、いろいろな活動を通して産業社会の多方面の分野において活躍できることを目指しています。



高大連携（岡山理科大学）



空飛ぶ車イス（出発式）

【商業科】

商業科では商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、専門的能力を身に付けるため、資格取得を奨励しています。

その結果、全商協会主催の1級合格者で8種目1名、7種目1名など結果が出てきています。

また、連携事業として、中高連携では市内の中学校へ出向きマナー教育を、高専連携では大原簿記専門学校の講師を招き専門的分野の授業を、高大連携においては関西福祉大学、流通科学大学から講師を招いて商品開発に向けての手順などを講義していただきました。

商品開発では、「廃棄物から創る相生の新ブランド」のテーマで、牡蠣殻を使った「牡蠣石鹸」を開発して、ビジネスプラン・コンペやサイエンスフェアにおいて発表しています。

毎年行っている総合実践では、模擬株式会社「相生産業株式会社」を設立して、全国各地の名産品・特産品を仕入れ、地域のイベントで販売実習を行っています。



商品開発の様子



高専連携事業（大原簿記専門学校）

【電気科】

電気科では基礎基本を重視し、授業実習を通して基礎学力の定着をはかり、豊かな人間性を培うとともに主体的に学習する意思や態度を育てています。

また、「地域と共に」を目標に、ふれあいものづくり事業では相生市内全小学6年生を対象に「レインボークロックの製作」、おもちゃ修理ボランティア、出る杭大会参加など地域に貢献できるような活動を行っています。

検定・資格試験においては第2種電気工事士試験では、32名の合格者を出しています。

合格者数は昨年とほぼ同じであるが、受験者総数が昨年より少なく合格率は微増しています。第1種電気工事士では過去最高の5人の合格者を出すことができました。

工事担任者DD3種については、昨年と同様に4名の合格者を出しています。

課題研究においては研究テーマをより明確にし、研究・検証を繰り返しました。その結果、課題研究発表会においても表現方法を工夫し、事前に発表会の指導をしていただいた関西福祉大学の方にも高い評価をいただきました。



おもちゃ修理（ボランティアの様子）



出る杭大会の様子

【定時制機械科】

定時制は、機械科1学級で、「地域とともに歩む定時制専門高校」を目標に、地域に貢献できる人材の育成をめざしています。機械科実習では、旋盤や溶接などの金属加工技術や3次元CADを用いた製図など工業の基礎を学び、地域の技術者を講師に招いて、技能の向上、検定・資格取得に取り組んでいます。学校の立地する相生市千尋町は海拔が低く、南海地震発生の際には津波被害が危惧されることから、平成28年度は、地元自治会と連携して、高台への避難誘導の目印となる標識を製作しました。また、3年前から製作を続けている交通安全標識（愛称：安全坊や）は、通算100体になり、平成29年2月に相生市へ30体を寄贈しました。定時制は、修業年限が原則4年ですが、3年で卒業できる「三修制」を平成27年度に設けました。三修制の生徒は、他の生徒より約1時間早く登校し、1日5時間の授業を受けています。それでも卒業単位が不足する分は、基礎製図検定合格やインターシップを単位認定することにより補っています。

ホームルームでは、「高校生心のサポートシステム」により生徒のコミュニケーション力を向上させ、健全な自尊感情を高めることにより自他ともに大切にできる生徒を育てています。



製作した避難誘導標識を自治会内に設置



安全坊やの贈呈式～記者の質問を受ける～

平成28年度 部活動の活躍

運動部

◆少林寺拳法部

- 第19回全国高等学校少林寺拳法選抜大会 (3月25～27日)
 男子組演武自由 第6位 應地龍也・村上良忠
 男子単独演武自由 第2位 應地友樹
 男子団体演武 第2位
 女子組演武自由 第6位 稲垣江梨花・小崎こころ
- 第46回兵庫県高等学校少林寺拳法大会 (6月4・5日)
 男子組演武 優勝 應地龍也・村上良忠
 第5位 大上雅史・清水翔汰
 第6位 藤井大智・森将輝
 男子単独演武 優勝 松井拓也
 第3位 應地友樹
 第4位 中島 晟
 男子団体演武 優勝
 男子総合 優勝
 女子組演武 第2位 稲垣江梨花・小崎こころ
 女子単独演武 優勝 山根希
 第2位 龍田明奈
 第4位 山崎友起子
 女子団体演武 第2位
 女子総合 第2位
- 第43回全国高等学校少林寺拳法大会 (7月28～31日)
 男子組演武 第12位 應地龍也・村上良忠
 男子団体演武 第3位
 女子組演武 第3位 稲垣江梨花・小崎こころ
- 第34回兵庫県高等学校少林寺拳法新人大会 (11月6日)
 男子組演武自由 優勝 應地友樹・松井拓也
 男子単独演武自由 優勝 森将輝
 第2位 藤井大智
 男子単独演武規定 優勝 水田悠大
 男子団体演武 優勝
 女子組演武自由 第2位 小崎こころ・山根希
 第4位 山崎友起子・名定和弥
 女子団体演武 優勝
- 第34回近畿高等学校少林寺拳法大会 (12月24・25日)
 男子組演武自由 優勝 應地友樹・松井拓也
 男子単独演武自由 第6位 藤井大智
 第8位 森将輝
 男子単独演武規定 第5位 水田悠大
 男子団体演武 優勝
 女子組演武自由 第2位 小崎こころ・山根希
 第8位 山崎友起子・名定和弥
 女子単独演武自由 第7位 奥澤知香
 女子団体演武 優勝
- 第20回全国高等学校少林寺拳法選抜大会 (H29年3月24～26日)
 男子組演武自由 優勝 應地友樹・松井拓也
 男子団体演武 第2位
 女子組演武自由 第8位 小崎こころ・山根希
 女子団体演武 第2位

◆柔道部

- 兵庫県高等学校総合体育大会柔道競技 (6月2～6日)
 男子団体 第5位
 女子団体 第5位
 男子個人81kg級 第3位 木下征哉
- 第65回兵庫県高等学校新人柔道大会 (11月11～13日)
 男子団体 第5位
 女子団体 第5位
 男子個人60kg級 第3位 吉田大樹
 男子個人66kg級 優勝 竹内龍生
- 平成28年度全国高校選手権県予選 (12月18日)
 男子個人60kg級 第3位 吉田大樹
 男子個人66kg級 第2位 竹内龍生
- 平成28年度近畿高等学校新人柔道大会 (1月28日～2月3・4日)
 男子個人60kg級 出場予定 吉田大樹
 男子個人66kg級 出場予定 竹内龍生
 男子団体 出場 女子団体 出場
- 兵庫柔道グランプリ2016高等学校柔道選手権 竹内龍生 出場



◆ボート部

- 第60回兵庫県高等学校総合体育大会ボート競技 (5月28・29日)
 男子総合 第2位
 男子シングルスカル 優勝 三田哲平
 男子ダブルスカル 第2位 S矢野B隈元
 男子舵手付クオドルプル 第3位 C田中S塩井3樫林
 2桑名B中西
- 女子シングルスカル 第3位 山下夏希
- 平成28年度全国高等学校総合体育大会ボート競技 (7月29日～8月1日)
 男子シングルスカル ベスト16 三田哲平
- 第57回兵庫県高等学校新人大会ボート競技 (10月1・2日)
 男子シングルスカル 優勝 三田哲平
 男子ダブルスカル 優勝 S八十B樫林
 女子シングルスカル 第3位 山下夏希
- 平成28年度全国高等学校選抜ボート大会近畿地区予選会 (11月5・6日)
 男子シングルスカル 第3位 三田哲平



◆弓道部

- 兵庫県民大会 (5月8日)
 女子個人の部 第5位 八幡真衣

◆陸上競技部

- 第68回兵庫県高等学校ユース陸上競技対校選手権大会 (8月20～22日)
 個人種目7名9種目出場
 1年生800m 準決勝進出 大松末来

文化部

◆商業部

- 第54回兵庫県高等学校簿記競技大会 (6月18日)
 団体 5位

◆機械研究部

- 第18回マイコンカーラリー近畿地区大会 (11月21日)
 Basic Class ベスト8 神前侃哉 (全国大会出場)
 Advanced Class 団体 第2位
 Advanced Class 第4位 木村聖 (全国大会出場)
 Advanced Class ベスト8 辻本彰吾 (全国大会出場)

◆写真同好会

- 第24回兵庫県高等学校春季写真コンテスト
 入選 野田 剛

定時制

◆陸上競技部

- 全国定時制通信制課程総合体育大会 (8月11～14日): 東京
 ○男子5000m 4年 藪林 瑞希 (予選19位・64人中)



◆サッカー部

- 近畿定時制通信制課程総合体育大会 (10月30日): 大阪
 ○兵庫県選抜選手 3年 高田 宏樹 (MF 背番号14)
 1回戦 滋賀県代表 (負け) ○3位決定戦 京都府代表 (勝ち)



平成28年度 進路状況

【就職】今年度の求人数は、有効求人 383 件(昨年 の 256 件)で指定校求人においては、260 件と昨年度より 60 件と大幅に増加し、良好な成果をあげることができました。卒業生 190 名(女子 68 名：以下かっこ内は女子)のうち、進学希望者は 65 名(35 名)、就職希望者は 125 名(33 名)であった。就職希望者のうち、119 名(30 名)が職安を通じた就職を希望しました。公務員希望のうち自衛官が 2 名・警察官 1 名が合格しました。

今年の就職状況を振り返ってみると、鉄鋼業関係や製造業関係の企業からの求人が多く、二次募集においても 30 社近くの求人依頼数がありました。また、女子に関しては事務職の求人が多くみられました。

【進学】進学希望者は 65 名(35 名)で、大学は 20 名(11 名)、短大は 6 名(6 名)、専門学校は 39 名(18 名)でした。国公立では大阪教育大学教育学部に 1 名、岡山大学経済学部の夜間に 1 名の計 2 名が合格しました。また、私立大学においても同志社大学スポーツ健康学部 に 1 名が合格しました。

今年度は一般入試で最後まであきらめず大学入試に挑む生徒が若干名いました。

「就職先」

(株)IHI相生工場、(株)IHIビジネスサポート、(株)IHIマスターメタル、アース製菓(株)、アイング(株)、青木鉄工(株)、(株)アズマ、赤穂化成(株)、(株)赤穂国際カントリークラブ、エースロック(株)、(株)オオキコーポレーション、(株)桂スチール、川崎重工業(株)、関西電力(株)、(株)カンベ、きむクリニック、極東産機(株)、キャタピラージャパン(株)、きょう整形外科、クリタ・ケミカル製造(株)、ケムプロ化成(株)、虹技(株)、高周波熱錬(株)、上月電装(株)、合同製鐵(株)、広陽電業(株)、寿鉄工(株)、コベルコ建機(株)、齋藤鋼材(株)、(株)三兄弟商事吉吉、山陽特殊製鋼(株)、(株)サントクテック、(株)三洋工事、シーダム工業(株)、(株)JMUアムテック、(株)ジェイアール西日本テクノス、(株)JSP関西工場、ジオマテック(株)、(株)新興精機製作所、新日鐵住金(株)、(株)スガテック、西城自工(株)、正同化学工業(株)、西播通運(株)、(株)ダイセル、大日本プラスチック(株)、大平工材(株)、大洋興業(株)、田口食品(株)、タテホ化学工業(株)、(株)手柄食品、特養あおやま、常盤堂製菓(株)、トッパンプラスチック(株)、トヨタ自動車(株)、西芝電機(株)、西日本衛材(株)、ニチイ学館、日光金属工業(株)、日輪機工(株)、(株)日触エンジニアリングサービス、(株)日伸電工、日鐵住金テクノロジー(株)、日鐵住金テクノスエンジニア(株)、日鐵住金電磁(株)、(株)日本海水、日本ジャイアントタイヤ(株)、(株)日本触媒、日本メンテナンスエンジニアリング(株)、日本山村硝子(株)、

日本郵便(株)、パナソニックデバイスSUNX竜野(株)、(株)ハマダ、姫菱テクニカ(株)、(株)兵庫イエローハット、兵庫製紙(株)、兵庫西農業協同組合、(株)フォーブス、(株)フククテクノス、フジプレミアム(株)、ブンセン(株)、三菱電機(株)姫路製作所、三菱電機(株)系統変電システム製作所、(株)MORESCO、ヤエガキ発酵技研(株)、山崎製パン(株)、ヤマト運輸(株)、ヤマトスチール(株)

「進学先」

大阪教育大学、岡山大学、大阪電気通信大学、岡山理科大学、関西福祉大学、関西外国語大学、環太平洋大学、吉備国際大学、京都橘大学、神戸医療福祉大、神戸学院大学、神戸女子大学、同志社大学、梅花女子大学、姫路獨協大学、流通科学大学、神戸女子短期大学、武庫川女子短期大学、兵庫大学短期大学部、大手前短期大学、姫路医師会看護専門学校、ECCアーティスト美容専門学校、大原医療福祉&スポーツ保育専門学校、大原簿記情報法律専門学校、岡山医療福祉専門学校、神戸愛犬美容専門学校姫路校、神戸医療福祉専門学校、神戸電子専門学校、神戸ベルエール美容専門学校、神戸理容美容専門学校、専門学校アートカレッジ神戸、中央工学校OSAKA、日本工科専門学校、日本調理製菓専門学校、ハーベスト医療福祉専門学校、はくほう会医療専門学校、バンダイゲームアカデミー

相生産業高校からの協力お願い

☆県立学校環境充実応援プロジェクトのお知らせ

《県立学校環境充実応援プロジェクトとは》

ふるさとひょうご寄附金の応援メニューの1つで、教育の一層の活発化を図るため、寄附金活用事業を設定し、学校機能向上、学校の特色づくりや部活動の応援、教育環境の充実等に充てるものです。

《相生産業高校での寄付金の使い方》

①相生産業高校生による元気町づくり

さまざまなボランティア活動に参加し、元気をアピールします。あなたのお困りを解決します。

②相生の産物を活用した商品開発

相生のカキ殻、地元特産物を生かした商品開発を行います。

(開発商品) 牡蠣石鹸・ゆずみそパン・キャッサバ芋焼酎

天然酵母パン・相生育ちのメロンリキュール

あいおいもアイス・ゆず味噌シフォンケーキ

③あいおい文化伝承活動

相生の文化、ペーロン祭、矢野荘園をアピールします。(海上運動会開催)

④あいおいこどもものづくり伝道師活動

ものづくりの楽しさを小学生に伝えます。(出前授業)



相産マスコットキャラクター「アイさん」

《寄付金手続きの方法》

相生産業高等学校ホームページトップのメインメニュー〔県立学校環境充実応援プロジェクト〕からダウンロードできます。

県立学校環境充実応援プロジェクト「寄附申出書(Word版、PDF版)」に必要事項(ご住所・お名前・連絡先等)をご記入の上、次のいずれかの方法でお申し込みください。

①窓口での直接申込 ②郵便 ③FAX

④電子メール ⑤電子申請

※ふるさと納税ワンストップ特例制度をご利用される方は「寄附申出書」の記載欄にその旨を記入願います。

《問い合わせ先》

※郵送の場合の寄附申込書類の送付先(寄附窓口)

★兵庫県立相生産業高等学校 事務室

〒678-0062 兵庫県相生千尋町10番50号

TEL 0791-22-0595 FAX 0791-22-1627

メールアドレス: Aioisan_hs@pref.hyogo.lg.jp

★兵庫県教育委員会事務局財務課(県庁3号館10階)

〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1

TEL 078-362-3744 FAX 078-362-3960

編集後記

同窓会通信の発行に際しまして、同窓会員の皆様から多くの原稿をいただきありがとうございました。

相生産業高等学校として72年の歴史を刻み、多くの会員の皆様が社会で活躍されていることに甘え、同窓会活動を今までの慣例どおりではいけないという思いで、定期的同窓会通信を発行することになりました。

今後とも会員の皆様からのご支援、ご協力をいただき、同窓会全体の一体化と母校がより飛躍するための活動を行ってまいりますのでご協力いただきますよう宜しくお願い申し上げます。(事務局 蛭子恭宏)